



## 新年あけましておめでとうございます

コロナの終息が見えないまま新しい年がスタートします。

感染に気をつけながら会員それぞれの想いを達成していきましょう！！

2021年あけましておめでとうございます。

今年も安全登山をよろしくお祈いします。

昨年はコロナに振り回された1年でした。感染しても症状の出ないウイルスのため、「感染しない」「させない行動」が求められ、多人数の山行、忘年会・新年会の自粛や例会の中止など、活動が停滞してしまいました。もうすぐ春です。日常のウォーキングやストレッチなどで身体を維持し、地図読みやロープワーク、セルフレスキューなどの復習、登山用具の手入れをしながら準備しましょう。

今年も「安く・楽しく・安全に」山を楽しみましょう。

会長 谷口伸二

## 山行報告

### <先月分の山行・続編>

#### 光城山 2020/12/9

#### 感想・・・ひろ子

パーキンソン病を患い歩行不安定な夫のために、山仲間がキムチ鍋山行を計画してくれた。夫も大好きなお酒も飲めるとあつてか、口もいつになく滑らか…。重いコンロ、食材等は夫と共に車で運び上げ、雲龍寺から登ってくる仲間と天平の森で合流。光

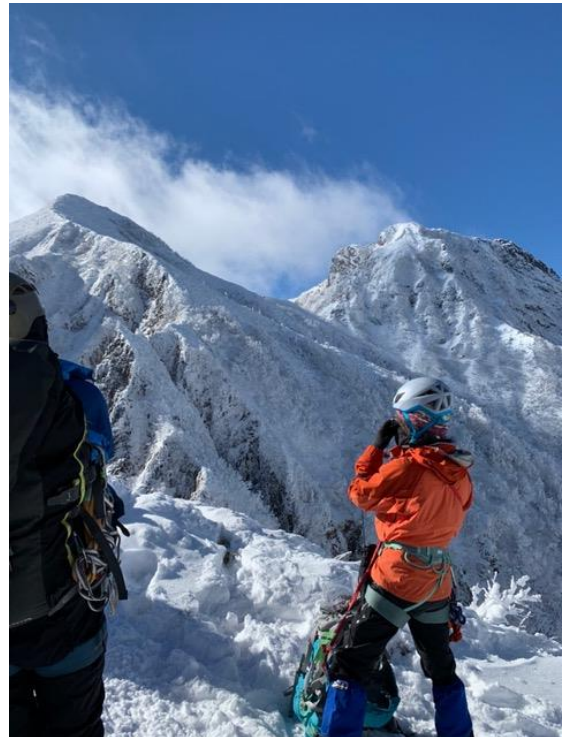


城山北のあずまやで鍋をする予定だったが、前日から12/8～3/31まで冬季閉鎖に入っていたため、四賀の五条地区から車に入った。天平の森、北の広場で鍋をすることに。長峰～光城山間は往来する人たちが何人かいる。神明宮経由で降りる仲間たちのために車を大口沢へ回し待つことに。落ち葉が積もり、急な下りの道は滑りやすく要注意だったとのこと。ちなみに鍋は餅・うどん入りキムチ鍋。仲間の自家製お餅・あずきのお汁粉。何杯もお替りした……。コロナ禍の中、久しぶりに山仲間との交流ができ、出会えた。仲間の皆さんに感謝です。

## ハヶ岳 赤岳 報告 文子

3年ぶりの赤岳は、体力の衰えを感じた山行だった。風は、ほとんど無く、絶好の登山日和と喜んだのも束の間だった。文三郎尾根の登りが、きつかった。アイゼンを着けた足は、重くて上がらない。息は苦しい。いつもなら、苦しい時は長くは続かず、すぐに楽になった。だが、今日はちがった。苦しい、しんどいの連続。頑張れ！と自分に言い聞かせて、何とか前に着いて行けた。

苦しい呼吸の中、岩にピッケルを掛けて登る。アイゼンの前爪2本で立ち込む、何度も練習した訓練の成果は出せ、自信になった。雪山に登る機会は少ないが、確実に身に着いてきていると、実感した。山頂で女性3人は秀さんとハグ。地藏尾根を下り、行者小屋15時15分。ヘッドランプを用意し下山。赤岳山荘駐車場17時40分。冬の赤岳日帰りは、厳しかった。



赤岳山荘駐車場 17時40分。冬の赤岳

## 感想・・・いくR/R

昨年の冬は全く冬靴を履かなかったので、久しぶりの重い靴を履いての山行となった。この所のサボりで筋力がない上に、久々の重量となり膝が悲鳴を上げた。もしかしたら今までで一番きついのではと思うほど息が上がった。誰もいない赤岳頂上は、素晴らしい景色と富士山が待っていた。

今年は行者小屋も閉まっいて、泊まることもできない。ひたすら足の痛みを我慢しての下山となった。また行きたいと思うまでは、時間がかかりそうだ。



2020末で登山ノート10冊が終了し、2021年から11冊目に入る。NO1は1997・年7月からスタートしているので23年経過したことになる。その前は「山と溪谷」の付録に付いてきた登山手帳に時々書いていたが、残念ながら1975・1975年の手帳しか手元に残っていない。裏を見ると持ち主欄に体重52kgと書いてあり笑ってしまった。

久しぶりに登山ノートを開くと、当初は丁寧な字で細かく記載してあるが段々乱暴な字で自分でも判読ができない文章も散見できる。

どうして登山ノートをつけることになったか判然としないが、たぶん記録をつけて老後の楽しみにしようと思ったのか、あるいは年賀状に記載する備忘録のためなのか釈然としない。

ノートを開くとスタートしたころは単独で県内の里山を多く登っている。参考にしたのは当時長野市でOKスポーツという山道具店を営んでいた丸山晴弘さんの著書「山旅湯旅」等を参考に登っていたと思う。その後丸山さんとは懇意にさせていただき著書には全てサインを頂き著書には言葉を書いていた。その中には「山は教材の宝庫 千思万考の教室です」と書いてある。日本山岳会信濃支部の仲間や穂高にあるワタスゲの仲間、大町労山にいた森田義彦さんとやっていた「里山楽会」の仲間等数多くの山行が記録されている。森田さんからは東北の山と温泉の楽しみを開眼してもらったことと森田さんを介して多くの友人ができたことを忘れることはできない。

里山には時々小学生の息子を連れて登ったときのエピソードも記載されており、笑ってしまう。さて11冊目からはどんな山行が記載されるであろう・・・楽しみである。



## 機関紙部より

コロナ禍の日常で山行も自粛への傾向が高まっており、終息の見通しが未だ見えていません。

2月号の機関紙はどうなるのかな？山の原稿は書いてもらえないとなると・・・。  
そこで、会員の皆さんに、今までの山行のエピソード、こんな時にしか書けないこと、なんでも受け付けます。宜しくお願いします。